

日本創造学会
Japan Creativity Society



JCS NEWS LETTER

第48回日本創造学会研究大会

2026/10/24(土)～25(日) 対面/オンライン開催

会場/共催：秋田県立大学

大会テーマ：「知識創造理論の進化」

探求～T型人材の“横”に焦点をあてた横断型人材の育成～



森田純恵実行委員長



尾澤知典実行委員



白坂成功実行委員



野中朋美実行委員

日本創造学会では、首都圏開催と地方開催を交互に行う慣例があり、本年度は人口減少や地域課題の先進地域である秋田県において研究大会を開催します。開催会場は、これらの課題に取り組む秋田県立大学秋田キャンパスで、日本創造学会と秋田県立大学の共催となります。

近年、AIの急速な進化により、複数分野にまたがる知識の統合と創造性の重要性が高まっています。こうした背景のもと、本大会では「横断型人材の育成」に焦点をあて、秋田の地域特性を活かした創造的対話の場を通じて、社会課題と創造性を接続する実践的議論の場とします。

本大会ではT型人材の「横棒」、すなわち分野横断的な知識連携と共創に着目します。異なる学問分野や産業、政策領域を接続し、新たな価値創造の基盤を探求します。

また、研究・教育・政策の連携を通じて、オランダに見られるような知識共有文化の醸成と、知識創造理論の教育現場への実装を加速します。



基調講演1：紺野登氏

日本創造学会フェロー Japan Innovation Network (JIN) 理事会議長

「イノベーションを生み出す知識生態系と横断的知性」

～組織的知識創造の展開とイノベーションマネジメントシステム～



基調講演2：坂本修一氏

北陸先端科学技術大学院大学 産学官連携客員教授 イノベーション教育学会リエゾン

「横断型人材の育成活動に関する現状と社会経済的文脈での活動効果の分析の必要性」

パネルディスカッション：知をつなぎ、未来を創る

ファシリテーター 永井由佳里氏 北陸先端科学技術大学院大学理事・副学長 日本創造学会フェロー・評議員長

パネリスト

- 紺野登氏 ●坂本修一氏
- 廣瀬文乃氏 政策研究大学院大学教授 立教大学経営学部兼任講師
- 尾澤知典氏 日本創造学会理事 慶應義塾大学大学院SDM研究科特任研究員
横浜市立小学校教諭

大会要項

【参加申込】学会ウェブサイト（7月1日オープン）より参加/発表の申込ができます。

参加申込URL：<https://conf.japancreativity.jp/>

*参加のみの場合でも、まず「発表者アカウントの作成」を行ってください。その後、画面上部の「参加登録」メニューから、必要事項を入力して登録していただきます。

*発表申込の際、仮のPDFファイルをアップロードしていただきます。

【会 場】秋田県立大学 秋田キャンパス メイン会場：図書メディア棟・講堂（大ホール）

住所：秋田県秋田市下新城野字街道端西241-438

秋田空港から車で約1時間、秋田駅から車で約30分、秋田駅から追分駅までJRで約15分、追分駅から徒歩20分 ※秋田県立大学秋田キャンパスへの移動手段は乗り合い車両を検討しています。

【日 程】2026年10月24日（土）～25日（日）

【発表申込締切】9月1日 ※発表は会員資格が必要です。（詳細下記参照）

【研究発表原稿/レジュメ提出締切】9月末日（厳守）

【内 容】講演会、パネル討議、一般発表（口頭発表・インタラクティブポスター発表）は発表原稿4枚提出、学生発表（口頭発表）はレジュメ1枚提出、懇親会（会場：秋田駅周辺）、学会賞表彰式、総会報告、写真撮影等

【開催方法】対面・オンラインでのハイブリッド開催

【参加費】事前振込 学生（会員/非会員同額）2,500円、正会員3,000円、非会員4,000円

当日参加（共通）5,000円※現金のみ

【懇親会参加費】学生会員2,000円、正会員、社会人学生、非会員一律5,000円

【発表原稿掲載料】4頁まで2,000円、1頁追加ごと1,000円、8枚まで

【学生発表のレジュメ掲載料】A4/1頁500円 追加頁不可 ※書式自由A4

【大会予稿集】研究大会予稿集はPDF（ダウンロード）で事前配布

【発表資格】発表は会員に限ります。非会員で発表希望の方は入会手続き後にお申し込みください。ただし、学生発表（レジュメ1枚提出）枠での発表者については、非会員でも発表ができます。

なお、学生の方で一般発表を希望する方は入会をお願いします。

【提出原稿】

〈一般発表の場合〉

・発表原稿は所定のテンプレートに従って作成してください。※原稿の査読はありません。

基本4頁から最大8頁まで、5頁以上は追加掲載料がかかります。

〈学生発表の場合〉

・レジュメ（書式自由A4サイズ）1頁

※いずれの発表も仮説のままや実験途中の案件でも構いません。ただし事務局への原稿訂正の依頼は受け付けません。

【発表時間】

・一般発表時間は約20分間、学生発表は15分間（質疑応答の時間を含む）です。

・インタラクティブポスター発表（ポスター/机上での展示やデモなどを含む）は発表概要の説明時間を含む準備時間を除き、45分間です。

※発表時間は、発表者数により変わる可能性があります。

【発表での注意事項】

○登壇発表ではご自身のPCを持ち込んでZoomに接続し、発表時は画面共有をしていただきます。なお、PCを持参されない方は、発表データを入れたUSBメモリを持参ください。

○インタラクティブポスター発表では机および、縦120cm、横180cmのパネルを利用できます。ポスター掲示用のテープやピンは学会が準備いたします。この発表は発表者と参加者との自由な討議・意見交換を行う対話型セッションです。発表者は発表場所に待機し、時間内で来場者への説明および質疑応答を行います。

○インターネット回線（Wi-Fi）を使用できます。

※発表方法の詳細については、発表数等が決まりましたら別途お知らせいたします。

スケジュール予定

※発表申込状況などによりスケジュールが変わる可能性があります

10月24日（土）Day1 ハイブリッド開催

12:30	受付開始
13:00-13:10	開会挨拶 秋田県立大学理事長 福田裕穂
13:10-15:30	基調講演 2本
15:30-16:00	パネル討議
16:00-17:00	インタラクティブポスター発表（対面発表）
18:30～	秋田駅周辺で懇親会

10月25日（日）Day2 ハイブリッド開催

9:00	受付開始
9:30-12:30	論文口頭発表 （対面・オンラインハイブリッド発表） 一般発表20分間 質疑含 学生発表15分間 質疑含
12:30-12:45	投票・総会報告・学会賞表彰式
12:45-12:55	閉会挨拶 日本創造学会理事長 三浦 元喜
12:55-13:00	集合写真撮影 解散

【宿 泊】

早めの宿泊予約をおすすめします。ご自身で予約をお願い致します。

研究大会 推奨ホテル

1	ホテルアルファワン秋田
2	リッチモンドホテル秋田駅前
3	こまちの湯 ドーミーイン秋田
4	ダイワロイネットホテル秋田駅前
5	A N A クラウンプラザホテル秋田 b y I H G
6	東横 I N N 秋田駅東口
7	メトロポリタン秋田

【交通アクセス 秋田キャンパス】





制約環境から考える創造性

— 宇宙・食・サービスをつなぐシステムデザインの視点 —

野中朋美

日本創造学会理事
早稲田大学創造理工学部
経営システム工学科教授

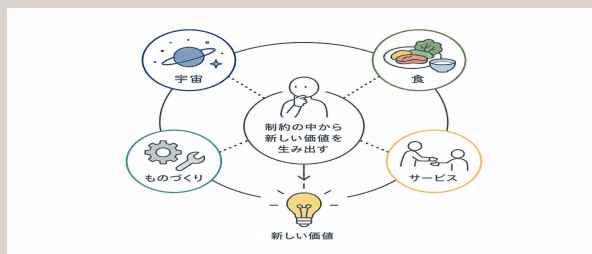
創造性研究において、創造性は「新規性」と「有用性」を併せ持つものとして定義されることが多く、また、個人の能力だけでなく、社会的・文化的文脈の中で成立するものとして論じられてきた（Amabile、1996；Sternberg & Lubart、1999）。Csikszentmihalyi（1996）は、創造性を、文化的領域、その領域に新規性をもたらす個人、そしてその革新を認識し妥当化する専門家集団という三つの要素から成るシステムの相互作用によって生じるものであると示している。このように考えると、創造性とは多様な条件や制約の中で新しい関係性を見だし、価値ある形へと構成し、既存の領域そのものを変化させる力であると捉えられる。

ここで、システムズエンジニアリングおよびサービス工学の視点から、創造性を、人と人工物、人とサービス、人と環境の関係性を再構成する営みとして捉える。たとえば、食の価値創造では、おいしさを単なる味覚の問題としてではなく、素材、調理プロセス、環境、文化的背景、記憶、五感、体験などが相互に作用するシステムとして捉えることができる。宇宙生活におけるQOL（Quality of Life）を考える場合には、空気、水、温熱、重力、空間、音、匂いといった条件の中で、人がどのように快適に過ごし、意味ある活動を行えるのかを設計対象として考える必要がある。

宇宙は究極の制約環境である。重力は地上と異なり、水や空気の物理的挙動も変わる。限られた空間や資源の中で、人は滞在し、働き、食べ、休み、他者と関わる。そのような環境では、地上で当たり前だと思っている生活の前提が揺さぶられる。宇宙を考えることは、地上の暮らしやサービス、価値基準を問い直すことにもつながる。制約は単なる障壁ではなく、システムの構造を明確にし、新たな設計可能性を顕在化させる契機にもなる可能性がある。

今後、宇宙は創造性を考えるうえでも重要な場になり得ると考える。宇宙を「到達する場所」から「利用する場所」、さらには「新しい価値を生み出す場所」として捉えるとき、地上の専門知、産業、文化、経験をどのように宇宙環境へ接続するかが問われる。地上で培われてきた多様な知識や実践が、宇宙という制約環境に置かれることで、新しい問いを生み出す。逆に、宇宙で求められる省資源性、限られた条件下での価値創出は、地上の持続可能な生活やサービスの再設計にも示唆を与える。宇宙を考えることは、遠い未来の特殊な課題を考えることではなく、地上の社会を新しい角度から捉え直すことでもある。

日本創造学会での活動を通じて、宇宙、食、ものづくり、サービスといった一見離れた領域をつなぎながら、制約の中から新しい価値を生み出すシステムデザインの可能性を探究していきたい。



日本学術会議 登録団体	日本創造学会第93回クリエイティブサロン 『日本創造学会 アワード受賞者講演会』 2026/6/21 SUN 13:30 start @Zoom 司会：尾澤知典 日本創造学会理事	参加費 無料
創造性の促進・阻害及びレジリエンスのメカニズムの探索的研究——非クリエイティブ職のビジネスパーソンを対象として——	トップアスリートの身体知の普及展開 サイバーフィジカルフィールドワークの実践事例として	評価者の癖を模倣した推論型LLMによるアイデア評価は人間にどこまで近づくか——生成AIを活用したアイデア評価システムの実現に向けて——
 47 th 研究大会ポスター発表賞 平沼智康氏 関志専門職大学事業創造学部准教授	 論文誌Vol.28論文賞 安松健氏 株式会社エゴルプ Chief Assemblage Officer 国立大学法人大阪教育大学 特任准教授	 47 th 研究大会発表賞 古川洋章氏 北九州市立大学准教授

平沼智康氏講演概要

【創造性の促進・阻害及びレジリエンスのメカニズムの探索的研究——非クリエイティブ職のビジネスパーソンを対象として——】

創造性が発揮しやすいとされる職場でも、なぜ、人によってその発揮のされ方に大きな差が生まれるのか。性格か。育ちか。それとも過去の強い阻害経験か。この問いを、単一時点の個人や組織の分析ではなく、複数の職場を経験する長期的なキャリアの変遷から捉える。本講演では、営業職やエンジニアなど、いわゆる「非クリエイティブ職」のビジネスパーソンを対象に、環境の文脈が資質や価値観の形成にどう作用し、そこで得られた学びが次の環境での創造的活動やレジリエンスにどうつながるのかを、複数回のインタビューと独自のプロセス図を用いて探索的に検討し、現時点で得られている知見を報告する。

安松健氏講演概要

【トップアスリートの身体知の普及展開 サイバーフィジカルフィールドワークの実践事例として】

プロフェッショナル人材が持つ暗黙知をいかに可視化し普及するかという問題に対し、本講演では、プロ人材の暗黙知の1つとして、ラグビーのトップレベル選手のパススピードに着目した事例を紹介する。パス速度を生み出す身体知の本質をサイバーフィジカルフィールドワークにより抽出し、習得可能な練習プログラムを開発。一般的な指導環境でのコーチング実践検証を通じて、短時間で特別な設備に依存せず実践可能な身体知の普及手法を確立した。本事例を通じて、サイバーフィジカル時代における問題解決プロセスの一例を提示する。

古川洋章氏講演概要

【評価者の癖を模倣した推論型LLMによるアイデア評価は人間にどこまで近づくか——生成AIを活用したアイデア評価システムの実現に向けて——】

多様な立場からアイデアを評価することは重要であるが、評価者を継続的かつ安定的に確保することは容易ではなく、時間的・経済的負担も大きい。そこで本研究では、人それぞれにみられる評価の傾向、すなわち「評価バイアス」に着目し、これを生成AIに再現させることで、アイデア評価をどこまで人間に近づけられるかを検討した。本講演では、30件のアイデアを対象に、評価軸である「新規性」・「妥当性」・「具体性」・「実現可能性」の4項目から人間と生成AIの評価結果を比較し、評価バイアスを活用した生成AIによる評価支援の可能性と課題について得られた知見を提示する。

【参加申込方法1】

日本創造学会事務局（jcs-info@japancreativity.jp）にメールでお申し込み下さい
 [氏名 / 所属 / 会員 or 非会員 / メールアドレス]

【参加申込方法2】

イベントポータルサイトPeatix から申込みができます。
<https://93th-cresalo.peatix.com>

▲▼▲第92回クリエイティブサロン（2026年3月28日）開催報告▲▼▲

第92回クリエイティブサロンの講演は各URLより視聴できます。

『指標のジレンマとウェルビーイング～ 「測れない価値」を殺さないための生存戦略～』

講師：西浦和樹氏 宮城学院女子大学 教育学部 教育学科 教授 スtockホルム商科大学 ウェルビーイング・ウェルフェア・ハピネスセンター（CWWH）客員教授



西浦和樹氏の講演は下記のURLから視聴できます。

<https://youtu.be/FwjLmiFGfnc>

『創造性と生成 AI の接点 ～「発想を支援する思考様式」と「生成 AI 活用の思考様式」のつながり』

講師：尾澤知典氏 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 特任研究員 横浜市立小学校教諭 日本創造学会理事



尾澤知典氏の講演は下記のURLから視聴できます。

<https://youtu.be/Z4wpmovMfBI>

【経営関連学会協議会主催 公開シンポジウム】

2040 年に向けた高等教育のあり方と課題 ～中教審答申と経団連報告書を中心に～

■ 開催概要

開催日時	2026 年 6 月 28 日(日) 15:30 ～ 17:00
開催形式	オンライン開催（※参加用 URL は別途ご案内いたします）
講演者	加藤 光保 氏（筑波大学 理事・プロボスト）

■ シンポジウム概要

我が国における急速な少子化による労働力供給不足の中で、大学における教育研究の「質」の高度化と改善が求められています。

本シンポジウムでは筑波大学理事・プロボストの加藤光保先生をお迎えして、2025 年 2 月 中央教育審議会答申「わが国の『知の総和』向上の未来像：高等教育システムの再構築」および 2026 年 3 月 経団連報告書「博士人材が活躍する社会の実現に向けて：目指すべき姿と具体的な取り組み」に講演いただきます。

概説の後、これらの内容を踏まえ、今後の大学および大学院における教育研究のあり方と必要な体制について議論します。

■ 参加登録・お問い合わせ

ご視聴ご希望の方は、右記の参加登録フォーム、または、
『経営関連学会協議会』のホームページ(<https://www.jfmra.org/>)
より、2026 年 6 月 26 日(金)までにお申し込みください。

お問い合わせ先：経営関連学会協議会企画：jfmra.p@gmail.com



新 入 会 員 紹 介



入会者（入会順）

氏名	会員種	所属	住所	専門分野
上山 アミ	学生会員	秋田県立大学	秋田県	情報工学
国分 峰樹	正会員	東京大学大学院	東京都	工学・経営学・教育学
小川 徹	正会員	東京都立病院機構	東京都	皮膚科学・皮膚病理学

2026年度の会費納入のお願い

学術研究団体である日本創造学会は、皆様の会費により運営されております。2026年度の会費がまだ未納の方は、下記口座にお振込みをお願い致します。

日本創造学会年会費納入先口座

ゆうちょ銀行（金融機関コード9900） 店番019 店名 019店（ゼロイチキョウ店）

当座 0126409 ニホンソウゾウガッカイ



書籍紹介



創造的自己研究ハンドブック 創造性を発揮するための心理学的探究

編纂：マチェイ・カルウオフスキとジェームズ・C・カウフマン 他

ナカニシヤ出版4950円（税込）

原著である『The Creative Self』は、マチェイ・カルウオフスキとジェームズ・C・カウフマンの編纂により2017年に刊行され、創造的自己信念を創造性研究の重要トピックとして決定づけた世界的な名著です。

ここ10年ほどで創造性研究の最前線における一大トピックとなっている

「創造的自己」という概念を体系的にまとめています。

本書では、個人の「創造的潜在能力」がいかにして実際の「創造的達成」へと結びつくのかというメカニズムに焦点を当てています。両者をつなぐ主体的意思決定のメカニズム「CBAAモデル（Creative Behavior as Agentic Action）」を中核に据え、能力の有無だけでなく「信念が行動を決める」という構造を、以下の要素から心理学的・実証的に網羅しています。

- ・創造的自己効力感「自分は特定の課題で創造的な成果を出せる」という自信
- ・創造的アイデンティティ「自分にとって創造活動が人生観の一部である」という認識
- ・創造的マインドセット 「創造性は育てることができる（成長）、あるいは生まれつきで変えられない（固定）という暗黙の思い込み」

事務局メッセージ

本号では、第48回日本創造学会研究大会のご案内を掲載しました。今年度は秋田県立大学との共催により、人口減少や地域課題の先進地域である秋田を会場として開催します。

AI時代においては、専門性に加え、異なる分野を結び付ける創造性や共創力がますます重要になっています。本大会が、研究・教育・産業を横断する新たな知の交流と創発の場となることを期待しています。多くの会員の皆様にご参加いただき、秋田の地で活発な議論を交わせることを楽しみにしております。

（事務局：比嘉）

日本創造学会 ニュースレター
2026年6月発行（No.2）

日本創造学会事務局

発行人：三浦元喜

編集担当：比嘉由佳里

〒272-0031 千葉県市川市平田

1-10-2

Tel 080-3465-6152

e-mail: jcs-info@japancreativity.jp

http://www.japancreativity.jp